

新潟市都市計画基本方針...

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

●めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
-新潟らしいコンパクトなまちづくり-

これは、「田園・自然」に囲まれたまち(市街地)が、まちなかを中心としたまとまりのある(コンパクトな)まちを形成し区(生活圏)の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指すものです。

●都市全体の構造

- 都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。
- 市街地形態の維持と田園・自然の保全(面の構造)
 - 都市及び地域の拠点の育成(点の構造)
 - 地域の拠点間の連携(線の構造)

図 都市構造概念図



新潟らしい景観形成...

都市の魅力の一つとして、潤いややすらぎのある快適な都市環境が求められています。

美しく个性的で魅力あるまちづくりを目指し、新潟らしい景観をまもり、そだて、つくりだすために、本市では平成19年から景観法に基づく景観計画と条例を定めるとともに、平成8年から屋外広告物法に基づく条例を定め、総合的・計画的に景観形成を推進しています。

また、各地域の歴史と文化を活かし、賑わいと活力あるまちづくりを進めます。



(本市を代表する景観 萬代橋と信濃川)



(屋外広告物と一体となった東大通りのバス停)

(都市計画課)

コミュニティを醸成する市街地整備の推進

●鳥屋野潟南部開発計画

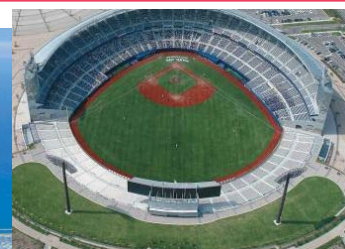
－水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性 鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン－

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院

いくとぴあ食花 建設地

HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)



鳥屋野潟南部地区全景

●まちなかのリニューアル

－地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなか再生を支援－

各地域の市街地中心部を“まちなか”と位置付け、地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなかの再生を目指し、市民が主体的に行うまちづくり活動に対し支援を行っています。また、政令市の顔である中心市街地の活性化に向け、土地の高度利用や都心居住の促進、広場や緑地等の公開空地の整備といった良好な市街地形成を図り、まちなか再生につながる民間の建築活動に対し支援を行っています。



【寄居町地区
まちなか再生建築物等
整備事業】

既成中心市街地である古町周辺地区に建築された築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。



【西堀通6番町地区
まちなか再生建築物等整備事業】

低未利用地に、住宅と商業施設による複合ビルを建設し、都心居住の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用により、中心市街地の活性化を図ります。



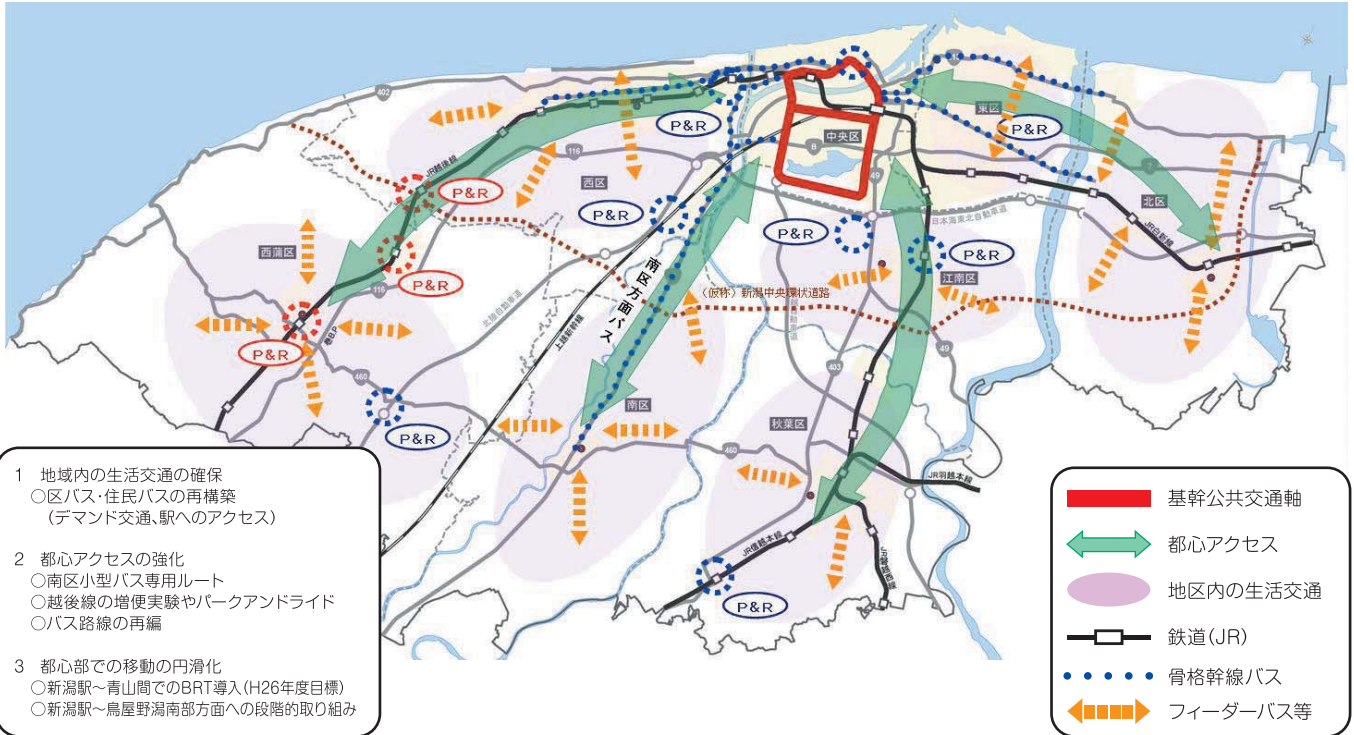
緑豊かな敷地内通路

(市街地整備課)

快適に移動できる交通便利都市を目指して...

●「にいがた交通戦略プラン」の推進

基幹公共交通軸を中心にバス交通の機能強化を図るとともに、区バスや住民バスなどにより、生活交通の確保に向けて取り組みます。



●都心アクセスの強化

鉄道駅のバリアフリー化や駅でのパークアンドライド駐車場の確保、フィーダーバスの増便実験のほか、鉄軌道のない南区方面へのバス利便性向上に取り組めます。



●地域内の生活交通の確保

各区において運行している区バスの改善や、住民組織で運行している住民バスへの支援強化のほか、デマンド交通などの取り組みにより地域の実情に応じた移動の確保を目指します。



区バス



住民バス

●モビリティマネジメントの推進

ノーマイカーデーの実施など、市民への意識啓発により過度な自動車依存からの脱却を目指します。



にいがたエコ通勤チャレンジサイト 検索
<http://www.niigata-ecommuters.com/>



モビリティ・マネジメントとは、過度に車が利用されている状況において公共交通や自転車などへ自発的な変化を促す、コミュニケーションを中心とした交通施策



(都市交通政策課)

●都心部での移動の円滑化(BRT導入)

医療・教育・商業・文化・行政など高次な都市機能が集積している都心部においてBRTを導入し、自動車を使わなくても誰もが快適に移動しやすい交通環境の実現を目指します。

平成25年4月に新潟交通株式会社と新潟駅・青山間を第1期導入区間とする運行計画の検討に向けた基本協定を締結しました。今後、BRTの運行計画や、市全域のバス路線の段階的な再編計画などをまとめ、平成25年度内には運行事業協定を締結し、平成26年度中の開業を目指します。

BRTとは? (Bus Rapid Transit)

従来のバスのイメージを一新する次世代型のバスシステム。通常のバス約2台分の輸送力がある低床型の連節バスが、より正確な時間で、多くの人を効率的に運びます。



導入ルート



導入イメージ(古町付近)

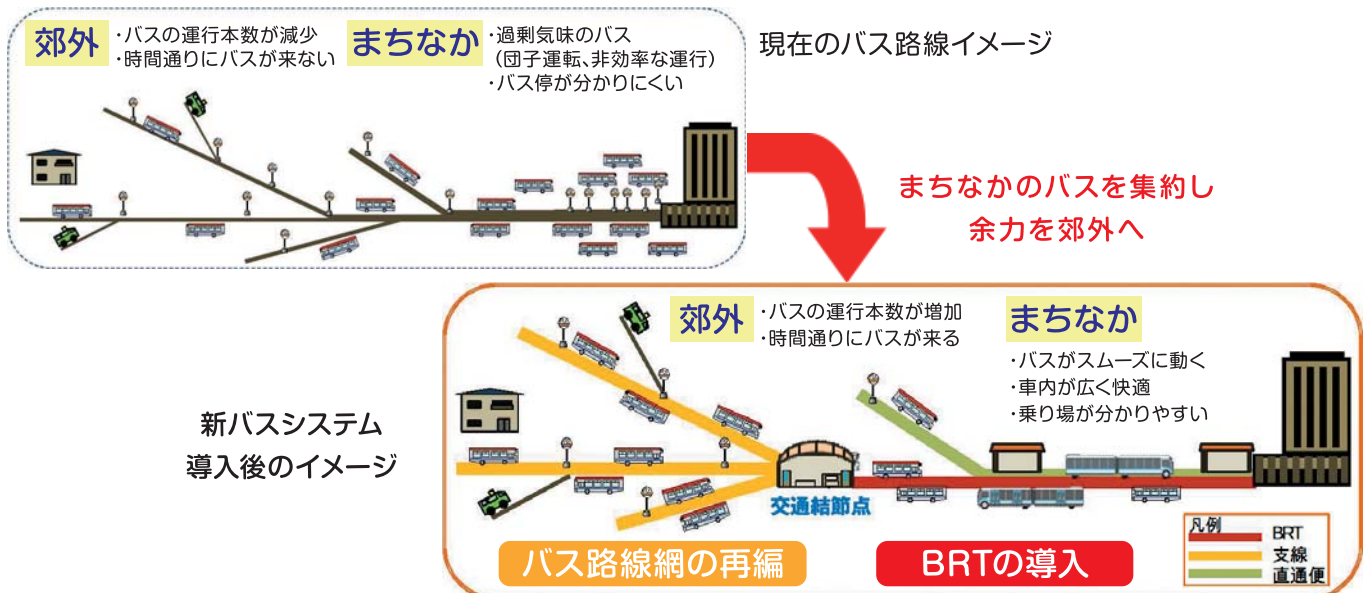
第1期導入区間(新潟駅～青山間)は平成26年度中の導入を目指します

※第2期導入区間(新潟駅～鳥屋野潟南部)は導入空間の確保を段階的に図りながら、LRTへの移行も見据え出来るだけ早い時期の導入を目指します。

●「新バスシステム」の運用

BRTの導入と、区バスや住民バスなどを含めた全市的なバス路線の再編を併せて行う「新バスシステム」により、将来にわたってバス路線を維持・拡充していくバス交通体系の実現を目指します。

具体的には現在まちなかで過剰気味に走行しているバスを、BRTの導入により集約することで、生じた余力を郊外路線の増便などにまわすことにより、全市的な交通の課題を改善し、地域の実情にあった持続可能な公共交通体系の実現を図ることができます。



(新交通推進課)

～日本海交流都市の拠点づくり～

●新潟港利用活性化事業

国際拠点港湾である新潟港は、日本海沿岸諸国の活力をわが国に取り込む物流拠点としての役割をはじめ、災害時に太平洋側港湾をバックアップする防災・救援拠点としての役割も期待されています。

<主な事業>

- ・輸出コンテナ貨物の荷主への支援
- ・日本海横断航路の支援
- ・県内及び関東を対象にしたポートセールス
(港湾課)



●新潟空港利用活性化事業

新潟空港の航空需要の拡大を図り、活性化を促進するため、利用客の増加や国際交流の促進などの事業を実施し、新潟空港の拠点化を高めます。

<主な事業>

- ・新規参入、増便路線への支援
- ・既存路線の拡充促進
- ・新規航空路開設に向けたチャーター便支援やエアポートセールス

(空港課)

●万代島にぎわい空間創出事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力あふれる「にぎわいの港」空間を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

- ・平成22年度、旧魚市場跡地に市民市場「ピアBandai」がオープン

<主な事業>

- ・旧水揚場跡地(ピアBandai向かい)の利用に向けた基本設計。



(港湾課)

新潟駅周辺整備事業概要

新潟駅周辺整備事業は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、日本海拠点都市にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめ、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。



新潟駅周辺整備事業の整備目標

供用目標	鉄道関係	広場・道路関係	〈参考〉新交通システム導入計画
H25年度頃～	白山駅舎・南北自由通路	(都)駅南線 (H26年度頃) 万代広場・白山駅前周辺 部分整備	(H26年度頃) 新潟駅(万代広場)～白山駅～ 青山地区間 BRT供用予定
H30年度頃～	越後線複線化 越後線高架化 暫定開業 同一ホーム乗換	(都)新潟鳥屋野線 (都)出来島上木戸線 (都)新潟駅西線(一部を除く) 高架側道・区画道路(越後線側)	(H26年度～H30年代前半) 駅南側へBRT車両の走行を検討
H33年度頃～	新潟駅高架化 信越本線・白新線高架化	(都)新潟駅西線 高架側道・区画道路(信越本線・白新線側)	(H34年度頃) 高架下交通広場供用による 新交通システムの南北一体化
H35年度頃～		万代広場、高架下交通広場 (都)新潟駅東線(鉄道交差部) (都)明石紫竹山線	

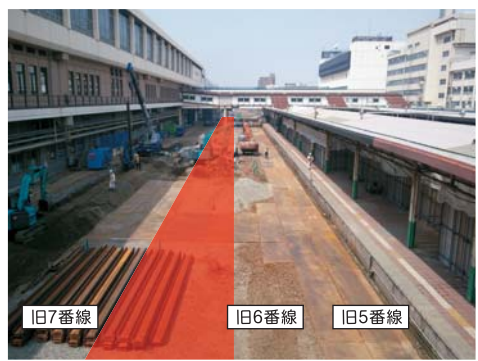
※図中の色分けは、表の供用目標年度を示します。

連続立体交差事業

JR信越本線等の新潟駅付近約2.5kmにおいて鉄道を高架化することにより、2箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化や、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図り、日本海側国土軸の形成の為、拠点性の向上を図る事業です。平成25年度は、昨年度に続き電車留置線の高架橋工事を進めるとともに、新潟駅部では将来の高架駅舎となる高架橋工事を進めます。



電車留置線の高架橋工事



新潟駅部での高架橋工事

万代広場部分整備事業

BRT導入を契機とした新潟駅万代広場の部分整備(平成26年度供用予定)により、市民及び利用者が広場の変わりゆく姿を実感し、将来整備に向けた期待感が高まるよう、にぎわい空間の創出や新潟らしさの演出を図ります。



万代広場部分整備イメージ

(新潟駅周辺整備事務所)